

履修証明プログラム
産学連携教育イノベーター育成プログラム

履修内容証明書

氏名： 大嶽 龍一

コース名： 産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

本証明書は、学校教育法第105条に基づく履修証明書を交付された
修了者の履修内容を補足説明するものである。

プログラム概要

産学連携教育イノベーター育成プログラムは、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う実務家教員を育成する。

総時間数： 60時間（自由選択学習項目時間は除く）

履修内容： 別紙「履修内容」のとおり

証明日： 2023年3月02日

発行者： 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター

履修内容（1ページ目/全6ページ）

氏名： 大嶽 龍一

コース名： 産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

プログラム総合評価



科目評価



履修内容（2ページ目/全6ページ）

氏名：大嶽 龍一

コース名：産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

大学教育基礎力科目（15時間）

目的：大学で授業を担当する際に必須となる
基礎的な知識・技能を修得する。

学習項目		選択	時間	概要
1	大学教育制度論	○	2.0	大学の歴史的発展プロセスを振り返り、現代の高等教育を特徴づける3つの変化について学ぶ。その上で、日本で進行する大学教育改革の特徴を考察し、その中で教員が担うべき主体的役割について考える。
2	インストラクショナルデザイン	○	2.0	教育や研修の効果・効率・魅力を高めるための道具である「インストラクショナルデザイン（ID）」の基礎理論や具体的手法について学ぶ。
3	授業設計論	○	2.0	学習目標、評価方法、教授方法を統合的にデザインする授業設計の方法を学び、実際に授業内外の学習をいかに設計して学習者に働きかけるかについて考える。
4	学習評価論	○	2.0	「学習評価」の枠組み・方法を概観した上で、特に学習成果の多様な評価方法について具体例を通して学ぶ。また、学生を評価の主体として育てていく必要性について考える。
5	学生・学習支援論	—	2.0	大学生の抱える心理的・発達の問題を理解するとともに、学生支援や「合理的配慮」に基づく障害学生支援について学ぶ。さらに、学習観が転換しつつある現代に求められる効果的な学習支援のあり方を考える。
6	カリキュラムマネジメント	○	2.0	大学におけるカリキュラムの歴史的変遷や現状を踏まえ、教育目的・教育目標を実現するための「カリキュラムマネジメント」の考え方や活用方法について学ぶ。
7	大学における倫理	—	2.0	知の生産・活用に携わるプロフェッショナルとして、研究上・学習上のアカデミック・インテグリティ（学術的誠実性）を身につけること、大学におけるハラスメントを防止することの大切さについて学ぶ。
8	教育改善論	—	2.0	大学に関するあらゆる情報を収集・分析・活用する「インスティテューショナル・リサーチ（IR）」と、学習者の学習活動に関するビッグデータを収集・分析して教育改善等につなげる「ラーニング・アナリティクス（LA）」について学び、組織的な教育改善のあり方について考える。
9	オンライン授業実践論	—	2.0	オンライン授業は、対面授業とどう違うのか。オンライン授業やeラーニングに役立つツール・手法を用いた実践事例を紹介しつつ、オンライン授業の実践時に配慮すべき10のポイントについて学ぶ。
10	ICT等先端技術活用教育論	—	2.0	ICT等の先端技術を教育実践でどのように活用するのかについて、実際に教育現場においてSNSアプリやスマートスピーカーを用いた実践事例を紹介しながら学ぶ。
11	実務家教員論	○	2.0	実務家教員が必要となっている政策的・社会的要因を背景に、実務家教員の役割やその登用メリットについて学ぶ。さらに、先達教員の経験から、実務家教員に求められる心がけや姿勢について考える。
12	大学教育基礎力レポート	○	3.0	受講した学習項目を通して学んだことを振り返り、考察するレポートを作成・提出する。

*本科目では、学習項目1から4、および学習項目12のすべて、また学習項目5から11の少なくとも2項目を選択・学習することを必修としています。

履修内容（3ページ目/全6ページ）

氏名：大嶽 龍一

コース名：産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

汎用的教育実践力科目（9時間）

目的：大学で授業を担当し、研究指導を行うために必要な実践的な知識・スキルを修得する。



学習項目		時間	概要
1	研究指導演習	3.0	教員が学生に考えるヒントを与え、動機づけ、励まし、対話を行いながら、課題遂行を促す「コーチング」技術を用いた研究指導について、ワークショップ形式で学ぶ。
2	授業デザインとシラバス作成	3.0	説得力あるシラバスを作るためには、授業の目標・活動・評価を構造化することが欠かせない。本演習では、オリジナルのワークシートを使いながら、構造的な授業設計のコンセプトを学ぶ。
3	インストラクショナルデザイン演習	3.0	大学教育基礎力科目の「インストラクショナルデザイン」や「授業設計論」で学んだ基礎知識を前提に、授業や教育プログラムの設計方法についてワークショップ形式で実践的に学ぶ。

履修内容（4ページ目/全6ページ）

氏名：大嶽 龍一

コース名：産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

専門領域別科目（24時間）

産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

目的：大学と産業界が緊密に連携することで、質保証がなされた21世紀型の新たなリベラルアーツ教育を構想・設計し、教授できるようになる。



学習項目		選択	時間	概要
1	リベラルアーツ教育論	○	3.0	リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学ぶ。
2	STEM・文理融合教育論	○	3.0	米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策とSTEM教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考える。
3	産学連携教育論	○	3.0	国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習（WIL）を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考える。
4	教育質保証論	○	3.0	2000年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果（コンピテンス）に基づく質保証の実践と課題について考える。
5	PBL設計・運営演習	—	12.0	受講者が主体となって、企業等の実課題に取り組むPBL型授業を設計・運営し、相互フィードバックを通して、教育実践力を高める。
6	リベラルアーツ・セミナー実践演習	○	12.0	受講者が主体となって、アクティブラーニングによるセミナー型リベラルアーツ教育の授業を設計し、実際に模擬授業を行うことを通して、教育実践力を高める。

*本科目では、学習項目1から4のすべて、学習項目5・6から1項目を選択し、学習することを必修としています。

履修内容（5ページ目/全6ページ）

氏名：大嶽 龍一

コース名：産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

専門領域別科目：自由選択学習項目

提供大学	学習項目	選択	時間	概要
産学連携リベラルアーツ教育力育成コース (東北大学提供)	リベラルアーツ教育論	/	3.0	リベラルアーツ教育の歴史的発展プロセスを振り返りつつ、日米の大学における一般教育（教養教育）カリキュラムを事例に、リベラルアーツ教育のカリキュラムの構造・原理について学ぶ。
	STEM・文理融合教育論	/	3.0	米・豪・シンガポール・日本における科学技術政策とSTEM教育の動向を概観し、先進事例の検討を通して文理融合型による大学教育の学際化について考える。
	産学連携教育論	/	3.0	国際的に拡大する産学連携教育の特徴を概観し、特に職業統合型学習（WIL）を例に、学術と職業を架橋し往還する教育の可能性について考える。
	教育質保証論	/	3.0	2000年代以降世界的に進行している高等教育質保証の動きを整理し、特に欧州のチューニングによる専門分野別の学習成果（コンピテンス）に基づく質保証の実践と課題について考える。
インストラクショナルデザイン指導力育成コース (熊本大学提供)	基盤的ID論	—	3.0	IDの基本的な考え方について理解した上で、掲示板による議論を行うとともに、それを応用する課題（自身の教育改善アイデア）を提出する。
	教材設計演習	—	3.0	自らの担当授業の中で、一コマ分の授業をするための、授業設計企画書・教授方法・教材・小テスト等を設計する練習を行う。
	動機づけ理論活用演習	—	3.0	多様な事例に対してARCSモデルを適用する練習を通じて、自らの授業設計の改善を行う。
	eポートフォリオ導入演習	—	3.0	受講者自身のeポートフォリオを構成することで、eポートフォリオの設計や運用について習得する。
アントレプレナーシップ教育力育成コース (大阪公立大学提供)	技術マネジメント基礎論	—	2.0	技術マネジメントとそれに関連する知識を学習する。
	アントレプレナーシップ基礎論	—	4.0	アントレプレナーに必要な基礎知識とベンチャービジネスの基本を学習する。
リーダーシップ開発力育成コース (立教大学提供)	リーダーシップ教育の理解	—	2.0	立教大学経営学部では「ビジネスリーダーシッププログラム」（BLP）を2006年から持続的に実施している。BLPは「①1回性の科目でなく複数の科目を段階別に履修する一貫性があること」「②学外の実務家教員まで門戸を開放する包容性があること」「③教員の役割を『SA』と呼ばれる立教の在學生と共有する主体性があること」といった特徴がある。ここでは、立教大学経営学部においてBLPが始まった経緯と現在に至るまでの試行錯誤、その過程で得られたノウハウを共有する。
	リーダーシップ教育方法論	○	2.0	人的資源開発の下位分野としてリーダーシップ開発の手法と背景理論を概観し、その実践例として立教大学経営学部の「ビジネスリーダーシッププログラム」（BLP）の教育事例を共有する。

* 本科目では、共同でプログラムを実施している他大学が提供するコースの学習項目を選択・学習することが可能です。

* 「/」と書かれている項目は、自身が所属しているコースが提供する学習項目のため、既に学習済みであることを示しています。

履修内容（6ページ目/全6ページ）

氏名：大嶽 龍一

コース名：産学連携リベラルアーツ教育力育成コース

教育イノベーター実践演習科目（12時間）

目的：これまでに修得した大学教育基礎力並びに汎用的及び専門的な教育実践力を総合的・応用的に活用して、教育イノベーターとして授業や教育プログラム等を変革・改善して実践・運営できるようになる。



学習項目		時間	概要
1	キャップストーン・プロジェクト	12.0	受講者が自ら構想した新規取組案（授業、カリキュラム、プロジェクトの案等）について、①事前準備、②オンライン指導、③発表資料の提出、③成果発表会、④振り返り・講評を行う。プログラムを通して修得した知識とスキルの統合と振り返りを行うことを通して「教育イノベーター」としての総まとめを行う。